# 男子 阿波 5年ぶり
# 女子 徳島市立 2年ぶり 頂点

弓道

全国高校選抜県予選

弓道の第36回全国高校選抜大会徳島県予選最終日は5日、鳴門弓道場で男女団体の予選後半と決勝リーグが行われた。男子は阿波が5年ぶり2度目の優勝を飾り、女子は徳島市立が2年ぶり5度目の頂点に立った。両校は全国大会（12月24～26日・大津市のウカルちゃんアリーナ）に出場。上位4校は第15回四国高校新人大会（11月19日・鳴門弓道場）の出場権を獲得した。

【男子】団体予選（24射）①阿波、富岡東16中③徳島北14中④徳島市立14中⑤城北14中⑥つるぎ、池田、徳島科技13中⑨鳴門、名西、富岡西12中⑫鳴門渦潮10中⑬小松島西、脇町9中⑮阿南高専、徳島商8中⑰城南7中⑱城ノ内6中⑲城東5中＝3～5位は競射による。上位4校が決勝リーグへ。

▽決勝リーグ（36射）①阿波（川端、土井、矢部、栗栖）3勝24中②徳島市立2勝1敗23中③徳島北1勝2敗20中④富岡東3敗14中

【女子】団体予選（24射）①徳島市立17中②鳴門渦潮、富岡東、小松島西14中⑤徳島北13中⑥城ノ内、城南12中⑧城北、名西、富岡西11中⑪鳴門、脇町9中⑬徳島商、城東8中⑮阿波、池田、阿南高専7中⑱つるぎ、徳島科技6中＝上位4校が決勝リーグへ。

▽決勝リーグ（36射）①徳島市立（武市、竹花、岡崎、古川）3勝21中②鳴門渦潮2勝1敗28中③小松島西1勝2敗23中④富岡東3敗18中

## 平常心 勝利もぎ取る 阿波

「練習通りの力が出せた」。決勝リーグの3戦で全勝した阿波の矢部主将は感激に浸りつつ、平常心でもぎ取った勝利を強調した。

第1戦で徳島北に7－6と1中差で辛勝。接戦をものにしたことで勢いづいた。9中で徳島市立に勝利した第2戦は大前の川端、中立ちの土井、落ちの矢部主将が最終4立目を皆中させて自信を深めた。

最終の第3戦は予選を同じ16中で1位通過した富岡東との対戦。プレッシャーのかかる一戦で、3人は1立目と2立目を皆中し、優勝を引き寄せた。3立目と4立目を川端と土井が外しても、矢部主将は「自分のペースで引いたらいける」という控えの栗栖のアドバイスを思い出して的中させた。

決勝リーグに残る4位入賞が目標だったチームの快進撃にはまだ先がある。全国大会に向け、矢部主将は「互いに助け合う一体感を持って大舞台に臨みたい」と力を込めた。

（須見千次郎）

【上】5年ぶり2度目の優勝を果たした阿波男子【下】2年ぶり5度目の頂点に立った徳島市立女子＝鳴門弓道場

## 1年生が得点稼ぐ 徳島市立

徳島市立が2年ぶりにVを奪還した。落ちの岡崎主将は「対戦相手を意識せず、いつも通り（弓を）引くことができた」と、平常心を保って勝てたことを強調した。

前日の個人戦を制した大前の武市が高い的中率でチームに流れを呼び込んだ。第1戦は3中、第2戦は全中、最終戦は3中。残りのメンバーの的中数が伸び悩む中、貴重な得点源となった1年生は「良い成績が出せて良かった」と振り返った。

全3戦を1中差で勝ち切る勝負強さを見せて全国切符を獲得。しかし、岡崎主将は的中数が4校中3番目だったことを反省し「的中率をもっと上げて、2年ぶりの優勝を狙う」と意気込んだ。

（佐々木基善）